

Webアプリケーション におけるUIデザイン

利用者の立場に立ったユーザーインターフェイスとは？

西谷 亮

NISHIYA, Ryo

マイクロソフト株式会社
デベロッパーマーケティング本部
デベロッパーエバンジェリスト

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:

Level



Samples

はじめに

アプリケーションの構築となると、オブジェクト指向 (OO) やサービス指向アーキテクチャ (SOA) の検討、あるいはUMLの利用などといった議論から始まることが多いのではないのでしょうか。たしかに、現在では設計論やその検討などが、ブームといってもいいほどの盛り上がりを見せています。

それはそれで良質なアプリケーションを作るという意味で歓迎すべきことですが、その際に忘れられがちな部分があります。それはユーザーインターフェイスデザインに関する議論です。

一般にシステムの利用者であるエンドユーザーの目にふれ、利用する入り口となるのは、ユーザーインターフェイス (UI) です。このUIがどのようにデザインされ、実装されているかが、実はシステムを構築する上で大きなポイントとなることがあります。

本稿では、Webアプリケーションにフォーカスを絞りつつ、適切なUIデザインを行なうことで、システムとして

どのようなメリットをエンドユーザーに提供できるのか、そして適切なデザインとはどのようなものなのかを検討します。

前提

WebアプリケーションであれWindowsアプリケーションであれ、UIのデザインに対するアプローチには共通点があります。それは、必ず利用者であるエンドユーザーの立場に立つということです。これは、何を意味するのでしょうか。

前述したようにアプリケーションの入り口となる部分、特に人が介在するシステムでは、必ずUIは存在します。

そもそも、システムが導入されるきっかけは、「業務の自動化/効率化・生産性の向上」といった理由があげられるはずですが、つまり、システムを導入するのは、必要としている作業を短期間に確実にこなすことが求められているからです。しかし、この捕らえ方を

誤ると違った方向へと向かってしまいます。

「業務の自動化／効率化」というと、開発者でなくとも“生産性”というキーワードを思い浮かべるはずですが、このとき、開発者の視点に立って、生産性を語ると「開発生産性」にすり変わってしまい、短納期で安定したシステムを納品することでエンドユーザーの満足を獲得できるかのように感じます。ここが“勘違い”なのです。

つまりエンドユーザーと開発者の中に基本的な視点の相違が生まれ、到達するポイントがズレてしまうのです。先の例で言えば、開発者にとっての生産性というキーワードは、開発生産性ですが、エンドユーザーにとっての生産性向上は、実は「Usability (ユーザビリティ)」、つまり“操作性”に存在することがあるのです。

操作性とは、利用者が使用するUIにおける、利用のしやすさということの意味します。この操作性の向上がもたらすものは、

- ・直感的に理解できる操作環境
- ・目的としている作業内容を少ない動作で実現する
- ・目的としている作業内容を短時間で完了させる

などがあげられます。つまり、

- ・短時間で容易に目的を達成できるようにすることで、より多くの作業を行なえるようにする
- ・空いた時間で新しいビジネスを推進する

といったことが目標となるわけです。

この事実を目を向けることで、UIのデザインに対するアプローチが変わってきます。

開発者の視点によって「開発生産性」という切り口だけに着目し、短納期を意識しすぎると熟考されていない（良くも悪くも）シンプルなUIになってしまったり、目的を達成することだけが可能なものになってしまうことがあります。たしかに短時間で完成し、開発コストも低減されるかもしれませんが、その後待ち構えている導入のためのトレーニングやサポート作業、そしてなにより操作性低下に伴う時間的なロスが生まれてしまいます。つまり、システム導入によって実現されるはずであったすべてが、UIを熟考しなかったがために失われてしまう危険性をはらんでいるわけです。

業務使用を目的としたカスタムソリューションでは、システム全体の設計を始める前にプラットフォーム選定や画面の検収を行なうことが多いことからわかるように、UI環境の選定とそのデザインについては、十分に注意しておく必要があります。

ユーザーが取るであろう行動の分析とその分析結果に基づいたUIデザインによって、実現する操作性と生産性の向上が確定するといっても過言ではないはずなのです。

どうデザインするか

WebアプリケーションにおけるUIのデザインに関しては、いくつかの前提

に基づいて検討しなければなりません。これは、システム自身が持つ要求によって変化するという意味を意味しています。

ここでいう前提とは、Webアプリケーションの場合、特定ブラウザのみに対応させるのか、もしくは、すべての環境をサポートしなければならないのか、ということです。システムとしてのクライアントプラットフォーム選定によって、デザインや操作性に対する考慮の方法が異なることがあるので、あらかじめ注意が必要です。

では、早速本題に入りましょう。

ここでは、ブラウザ環境はInternet Explorerに限定可能と想定して検討を進めてゆきます。多くの環境をサポートしなければならないケースについては、最後にまとめておきましょう。

ブラウザ環境を特定のものにできると想定した場合、そのブラウザ自身の持つ機能を活用した高度なUIのデザインを施すことが検討できるようになります。Internet Explorerなどの高度な描画機能や拡張機能を備えているものであれば、Macromedia Flash PlayerのようなActiveXコントロールの活用をはじめ、DHTMLによるレンダリングなどの利用が可能です。ここでは、いずれの技術を使用していたとしても検討しておかなければならない、UIデザインにおける傾向と対策について提示しておくことにしましょう。

前述したとおり、どのような技術を採用しようと、最終的には使用するエンドユーザーが本当に使いやすいかどうかには注意を払わなければなりません。そのためには、実際の利用者がどのよ